

日本第四紀学会主催シンポジウム・普及講演会

共催：島根大学エスチュアリー研究センター・総合博物館

後援：島根考古学会、島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会、島根県地学会

「出雲平野と宍道湖の歴史」

2025年8月31日(日)

会場：島根大学松江キャンパス 大学ホール（松江市西川津町1060）

入場無料：事前予約不要

松江市において20年ぶりに開催される日本第四紀学会大会において、以下のシンポジウムと普及講演会を公開で開催することになりました。シンポジウムでは、気候変動と人間活動の関係を議論し、普及講演会では前回の松江大会以降に進展した出雲平野と宍道湖の環境変遷に関する最新の研究成果を紹介する予定です。

シンポジウム

「後期完新世の気候変動と人間活動との関係をさぐる」

中期完新世の温暖な気候から4,200年前の寒冷イベントを経て、気候変化の大きな後期完新世となります。後期完新世は、縄文から弥生、古墳を経て歴史時代に変遷した時代であり、気候変動や環境変化が人間活動と密接に関係し、大きな影響を受けて文化が移り変わってきた時代でもあります。これらの変動と連関を様々な視点から議論する予定です。

0830 受付開始

0900-0910 趣旨説明 齋藤文紀

0910-0950 平林頌子・横山祐典(東京大学 大気海洋研究所)

「完新世の気候変動と人間社会への影響」

0950-1030 中塚 武(名古屋大学 大学院環境学研究科)

「後期完新世の年単位の気候復元から見えるもの」

1050-1130 若林邦彦(同志社大学 歴史資料館)

「乾燥温暖/湿潤寒冷傾向と弥生～古墳時代の文化変化・社会統合」

1130-1210 岩本 崇(島根大学 法文学部)

「青銅器サプライチェーンからみた弥生・古墳時代の山陰」

1210-1230 総合討論

普及講演会

「縄文時代から現在に至る出雲平野・宍道湖の移り変わり」

1300 受付開始

1330-1415 齋藤文紀(島根大学 エスチュアリー研究センター・特任教授)

「出雲平野のボーリング調査から得られた新知見」

1415-1530 會下和宏(島根大学 総合博物館館長・教授)

「宍道湖・中海周辺地域の古環境変遷と遺跡の様相」

お問い合わせ先：島根大学エスチュアリー研究センター 齋藤

Email: ysaito@soc.shimane-u.ac.jp